

AFICAT、および JICA農業機械化支援の進捗

2025年12月18日 AFICAT有識者会合

経済開発部農業・農村開発第2G

前回会合（2025年4月）以降の動き

7つの機能	海外での機能	国内での機能
① 広域アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー（個別専門家）の派遣中（タンザニア） ・広域アドバイザーを1月に派遣（西アフリカ3か国） ・アドバイザーと連携し、現地AFICAT委員会を設立（ケニア、ナイジェリア、コートジボワール） ・アドバイザーからの情報提供（ケニア、タンザニア、ナイジェリア） 	<ul style="list-style-type: none"> ・AFICAT調査チームによる活動（よりニーズに沿った勉強会、セミナー、スタディツアーカンザニア等） ・AFICAT招へい団とのビジネスフォーラム（5月22日開催）
②展示、実証、デモンстраーション	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示スペース（ケニア、タンザニア、コートジボワール） ・アフリカ域内イベントへの参加（ケニア5回、タンザニア2回、ナイジェリア2回、ガーナ1回、コートジボワール1回、セネガル1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・AFICAT調査チームによる活動（国内展示会への出展、等） ・JICA筑波共創ハブ（5/23開催）
③ビジネスモデル／VCの実証	<ul style="list-style-type: none"> ・AFICAT調査チーム中心の活動（実証委託先候補のご紹介、等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA BizでAFICAT参加企業が3件実施中（ニーズ調査2件、ビジネス化実証事業1件）
④金融	<ul style="list-style-type: none"> ・農業Two Step Loan（有償資金協力）の開始（タンザニア）、形成調査の実施（ナイジェリア、セネガル） ・（無償）農家の機械化サービスへのアクセス向上を支援（コートジボワール） 	<ul style="list-style-type: none"> ・AFICAT調査チームによる活動（勉強会等での事業概要の共有、等）
⑤イノベーション・ラボ		
⑥広報	<ul style="list-style-type: none"> ・AFICAT調査チームによる活動（ニュースレター、Website、等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA HP上での公開 ・AFICAT情報交換会の開催
⑦人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・研修「農業機械化促進（通称PAMA）」の実施 ・帰国研修員のAFICAT委員会への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・AFICATフォーカルの本邦招聘（5月18日～24日）

前回有識者会合2025年4月コメント

No.	有識者からのコメント	対応進捗
1	土地生産性を高める機械化の研究、そのための地域に合った正しい情報を得るために日本の援助が必要。	研究機関との連携はまだ限定期ですが、コートジボワールのAFICAT委員会には研究機関も参画し、関係者間での情報共有の機会ができつつあります。
2	現地に適した機械を提供するための現地の正確なデータが必要(現地の需要、経済発展の見通し、機械化による貢献等)	前回の会合以降、4回の情報交換会を開催して情報発信したり、日農工様および企業からの個別の問合せに対応をしています。
3	機械化支援の進捗をより理解するために、ビフォー＆アフターという見える形で示してもらえるとよい。	顕著な進捗の際には、今後、わかりやすく示せるようにしていきます。
4	JICA長期研修員がアフリカ／AFICATに关心を持つ企業がアクセスできる機会があるとよい。	AFICATが対象国の農業機械化支援に関わる事例があります。また、JICAの本邦での研修で別途戦略の実施に関する支援を行い、AFICATとも連携しています。
5	研修員の出身国、専門知識、などの情報をJICA 経済開発部が個人情報に配慮する形で保有する仕組みがあるとよい	仕組み作りはまだですが、経済開発部の国担当者が長期・短期研修員を把握するようにしています。
6	AFICAT対象国出身の研修員がビジネスフォーラムに参加等を通じて、企業とのネットワークが強化されるとよい。	今年5月に開催したビジネスフォーラムでは、長期研修員も参加していただけるようにオーブンな会としました。引き続きイベントなどの機会には長期研修員にも案内をしていくようにしていきます。
7	JICA 長期研修員が、日本とアフリカの架け橋になるための人材を作るきっかけがあるとよい。	対象国の技術協力プロジェクトや灌漑事業(ケニア)と情報交換をしている例はあります。他ドナーとの連携も含め今後も検討していきます。
8	JICA の他の事業とリンクする形で、アフリカの土地開発に関してグランドデザインができる人と協働するとよい。	コートジボワールAFICAT委員会では、政府関係者に加え、生産者組合や民間企業も参加した協議が進んでいます。
9	対象国の機械化のビジョンを基に、AFICAT委員会のワークプランによる活動を進めるとよい。	帰国した研修員がAFICAT委員会メンバーとなる事例がでいて(ケニア、ナイジェリア、コートジボワール)ので、彼らがそのような役割を果たし始めています。
10	AFICAT委員会を通じて、課題別研修の帰国研修員と企業とをつなげられるとよい。	

AFICATの今後の展開（案）

※下線はアドバイザーや技プロとの連携を想定したもの

